

つみて梅の花のいみじく咲たるにつけてもてきたるゑにやあらんと急ぎ取いれて見れば、へ  
いだんといふ物を二つならべてつゝみたる成けり、そへたるたて文に、けもんのやうにかきて、  
進上へいだん一つ、み例によりて進上如件少納言殿にとて、月日かきて、みまなのなりゆきと  
て、○下略

○按ズルニ、なりゆきハ、行成ノ字ヲ倒置セルナリ、

〔朝野群載 十三〕評倭歌策

從四位下和歌博士紀朝臣貫成問江匡房作

和歌得業生從七位上行信濃目花園朝臣赤恒對

〔河海抄〕序

こゝに愁に、わかんごをりのすゑをうけて、はるかに惟光良清○二人名見源氏物語が風を去たふいやし  
き翁あり○中略紫のふでの跡にそむる志をあらはさむとす○中略

河海抄卷第一

正六位上物語博士源惟良撰

〔文會雜記 一上〕一壽門松ノ文章ハ、小宮山奎之進幕下カ、レテ、李江晋ト作者名ヲセラレタリ、李

ノ字ノ中ニ木ノ字アリ、江ノ字ノ中ニ工ノ字アリ、晋ハ進ノ聲ヲカリタリ、甚ダ器用ノ人ナリ、

〔政事要略 八十四〕又曰○訓律投匿名書告人罪者徒三年、謂絕匿姓名、及假人姓名、以避己作弃置之、

〔日本書紀 十五〕穴穗天皇康三年十月、天皇父市邊押磐皇子、及帳内佐伯部仲子、於蚊屋野爲大泊

瀬、天皇○雄見殺、因埋同穴、於是天皇與億計王○仁聞、父見射、恐懼皆逃亡、自匿帳内、日下部連使主

使主此云於瀨與其子吾田彥、竊奉天皇與億計王、避難於丹波國余社郡、使主遂改名、字曰田疾、來尙恐見誅

從茲遁入播磨國縮見山石室、而自經死、天皇尙不識、使主所之、勸兄億計王、向播磨國赤石郡、俱改字

曰丹波小子、就仕於縮見屯倉首吾田彥、至此不離、固執臣禮、

匿名